**口永良部島の石垣**

本村のフェリーポートから約二、三分歩いたところにある口永良部島の本通りには、年代不詳の石垣が並んでいます。これらの石は均一な切石ではなく、丸みのある、海で採集されたもので、高く積み上げられて、この壁に風格のある外観を与えています。家々の前に築かれたこれらの壁は、侵入者が敷地に入ってくるのを防ぎ、および／または、台風の風から家を守る、という二つの目的を持っていたのかもしれません。日本の南西部の島々では石垣は一般的ですが、口永良部島のものは沖縄のようなさらに南にある島々のものよりも高く、石も大きいと言われています。残念なことに、最近学者たちに指摘されるまで、これらの石垣の独自性や文化財としての価値は一般に評価されていなかったため、維持保存の作業が十分には行われてきませんでした。